

第32期目録委員会記録 No.3

第3回委員会

日時：2009年6月20日（土）14時00分～17時10分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長，東、木下、酒見、鴫田、平田、古川、横山、渡邊

欠席：なし

<事務局>磯部

[配付資料]

1. 日本目録規則1987年版改訂3版修正箇所一覧（3ページ-A4、横山委員）
2. 日本目録規則1987年版改訂3版についての疑問点（追加）
（2ページ-A4、松井純子氏・事務局）
3. 目録に関する調査について（案）（1ページ-A4、原井委員長）
4. [ISBD] 0 Content form and media type area（Apr. 15, 2009）（7ページ-A4、横山委員）
5. 2008年10月31日RDA草案 付録A大文字使用法、付録B略語、付録C冒頭の冠詞 概要
（3ページ-A4、横山委員）
6. RDA最終草案 付録D, E（2ページ-A4、渡邊委員）
7. 付録F：個人名に関する付加的規定、付録G：称号・地位等、付録H：キリスト教暦の
日付（3ページ-A4、東委員）
8. [NACISIS-CAT RDA mapping]（12ページ-A4、平田委員）
9. [AACR2 2002年版] 付録D 用語解説（9ページ-A4、平田委員）
10. [RDA Glossary検討（p.1-7）]（6ページ-A4、東委員）
11. Glossary（15-21）（7ページ-A4、原井委員長）
12. Glossary（22-28）（7ページ-A4、平田委員）
13. RDA全体草案のGlossary（28-35ページ）に関するメモ（3ページ-A4、古川委員）
14. RDA草案 用語集（p.36-41）（2ページ-A4、横山委員）
15. RDA用語集（p.42-47）（2ページ-A4、渡邊委員）
16. 第32期目録委員会記録 No.1（3ページ-A4、事務局）
17. 第32期目録委員会記録 No.2（案）（3ページ-A4、事務局）
18. 第32期（2009.4～2011.3）目録委員会[名簿]（1ページ-A4、事務局）

[報告事項]

1. 新委員の就任について

委員長より、酒見佳世（慶應義塾大学）・鴫田拓哉（筑波大学大学院）の両氏が委員に就任した旨、報告があった。新旧委員の自己紹介を行った。

[検討事項]

1. 日本目録規則1987年版改訂3版の誤植訂正について

資料1,2を検討し、以下を決定した。

- ・資料1の「(保留)」のうち、p289及びp301(行の増減が生じるため保留)は明らかな誤りなので、工夫して修正する。p270及びp324は修正しない。
- ・p301の「出版・頒布地等」「出版・頒布者等」はそのままとし、同ページの「出版地・頒布地等」(1箇所)を「出版・頒布地等」に修正する。
- ・p309の2件は2刷で修正済であることが判明し、修正候補から除外する。
- ・p398の「所在記号」「請求記号」の不整合については、「請求記号」に統一する。

上記以外は資料1の通り修正する。修正箇所はWeb上に掲載することとし、その案は横山委員が作成する。

2. 目録に関する調査について

資料4をもとに、調査の方針や進め方について意見を交換した。質問の精選と選択肢の吟味の必要性、分館等の取り扱い、電子的回答手段の必要性、等について意見があった。

次回に向けて、目的・方針について原井委員長が、アンケート項目について木下委員が、それぞれたたき台を作成することとした。

3. ISBDのエリア0新設について

資料4をもとに、横山委員より経緯説明があった。

- ・World Wide Reviewの結果を受けて4月付で修正案(資料4)が作成された。内容種別・メディア種別にそれぞれ"Other"が新設されたこと、multiform, multimediaの語をそれぞれmultiple content forms, multiple mediaに改めたこと、等が主な修正点である。
- ・IFLA目録委員会常任委員会の投票にかけられた結果、本修正案はpreliminary(予備的)段階のものとして発表されることとなった。

4. RDA最終草案の付録(Appendix)について

資料5をもとに、横山委員より付録A(大文字使用法)、B(略語)、C(冒頭の冠詞)について説明があり、意見を交換した。

- ・AACR2と比較して、それほど大きな変更はない。
- ・略語の使用はAACR2よりも減少している。

資料6をもとに、渡邊委員より付録D(記述データのためのレコード構文)、E(アクセスポイントコントロールのためのレコード構文)について説明があり、意見を交換した。

- ・付録DではISBD及びMARC21とのマッピングが示され、DCとのマッピングが準備中となっている。構文的側面を規定しないDCとのマッピングが行われるのは疑問であ

る。

- ・ RDAの複数のエレメントがMARC21の単一のサブフィールドに対応する箇所や、RDAの単一のエレメントがMARC21の複数のサブフィールドに対応する箇所がある。
- ・ MARC21の標目部分は「関連」の章ではなく6,9-11章のエレメントとマッピングしている。
- ・ ISBD区切り記号については、ISBD Review Groupからの意見によって付録Dに若干の修正が発生している模様である。

資料7をもとに、東委員より付録F(個人名に関する付加的規定)、G(称号・地位等)、H(キリスト教暦の日付)について説明があり、意見を交換した。

- ・ いずれもAACR2では22章にあった条項を、付録に移したものである。付録Fにおけるインドネシア語の名前など、AACR2より詳細になっている部分もある。
- ・ 同様の考え方で音楽資料、法律資料等に関わる諸規定も付録に移す議論があったが、実現はしなかった。付録に移して本編を身軽にしたほうが使いやすいようにも思われる。

平田委員より、付録M(事例集)とNACSIS-CATの書誌・典拠レコードとのマッピングを試みた資料8について説明があり、意見を交換した。事例については次回以降、分担してさらに精査することとした。

5. RDA最終草案の用語集(Glossary)について

資料10～12をもとに、各委員より用語集p1～28について説明があり、意見を交換した。

- ・ AACR2の用語集と対照すると、追加・削除とも大変多い。特に、メディアタイプ・キャリアタイプ・内容タイプ・エレメント名に用いられる用語の追加が目立つ。
- ・ 見出しだけで中身がない項目が若干ある。
- ・ collectionの定義が「収集物」の意味だけとなり、「合集」の意味は示されなくなった。他方、本文で使われているaggregatesは追加されておらず、疑問である。
- ・ descriptionの定義が従来の「書誌記述」の意味から大きく変更された。
- ・ itemの定義文も大きく変更されている。

残る部分は、次回に持ち越しとした。

6. 議事録確認

第2回記録案(資料17)を確認した。

次回以降の委員会の予定

8月1日(土)

以上